

平成30年12月  
平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難の在り方について  
(報告)【参考資料】

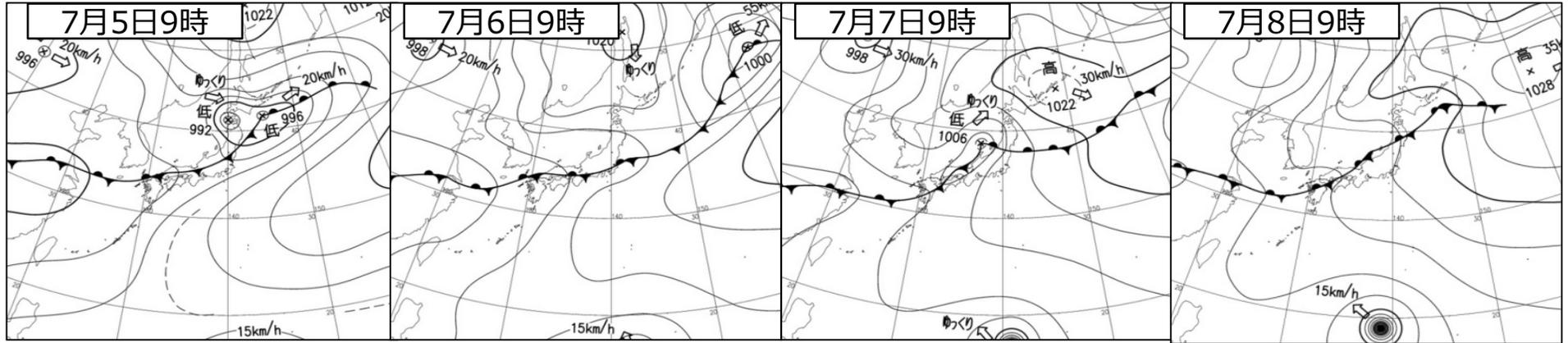
## 平成30年7月豪雨の概要

平成30年11月27日  
平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの  
避難に関するワーキンググループ第2回

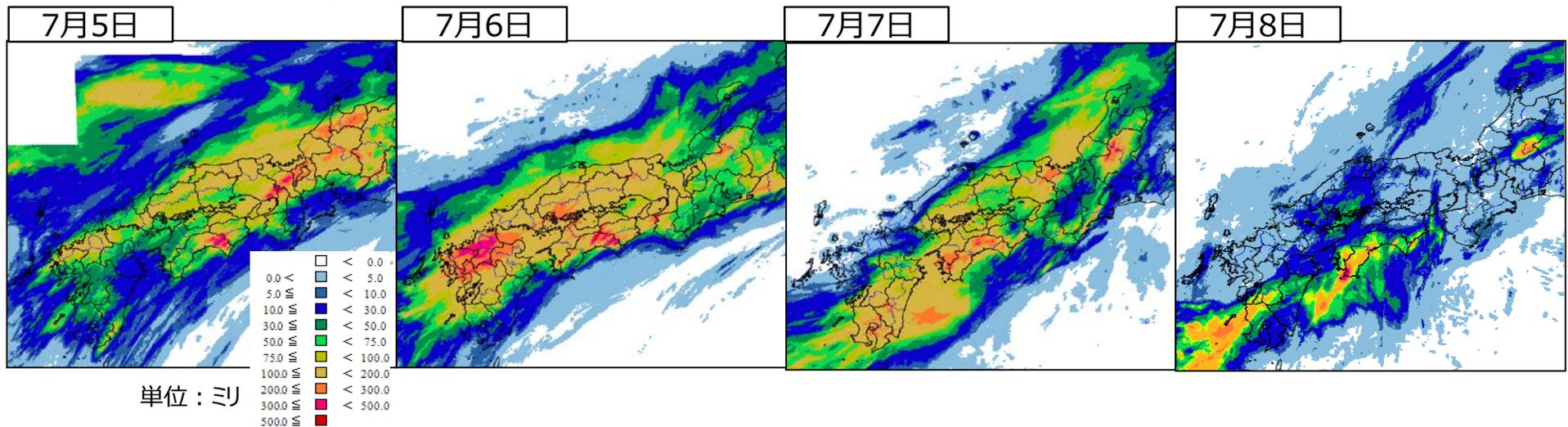
# 「平成30年7月豪雨」の気象概要

- 台風第7号から変わった温帯低気圧が、7月5日には本州付近に停滞していた梅雨前線と一体化した。
- 梅雨前線は、暖かく湿った空気が継続して流れ込んだ影響で、活動が非常に活発となった。  
この状態が、7月5日頃から8日頃まで続いたため、西日本から東海地方を中心に記録的な大雨となった。

## ■ 天気図

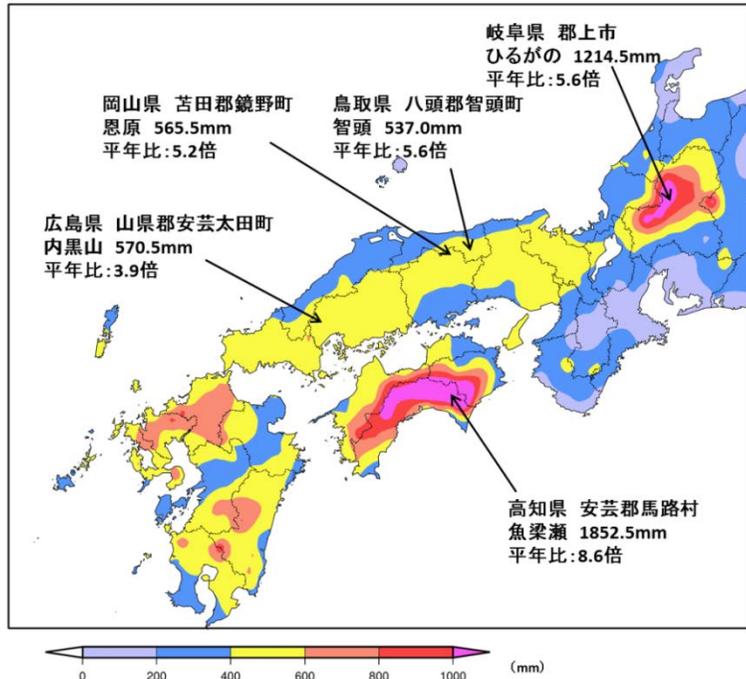


## ■ 日降水量（解析雨量）

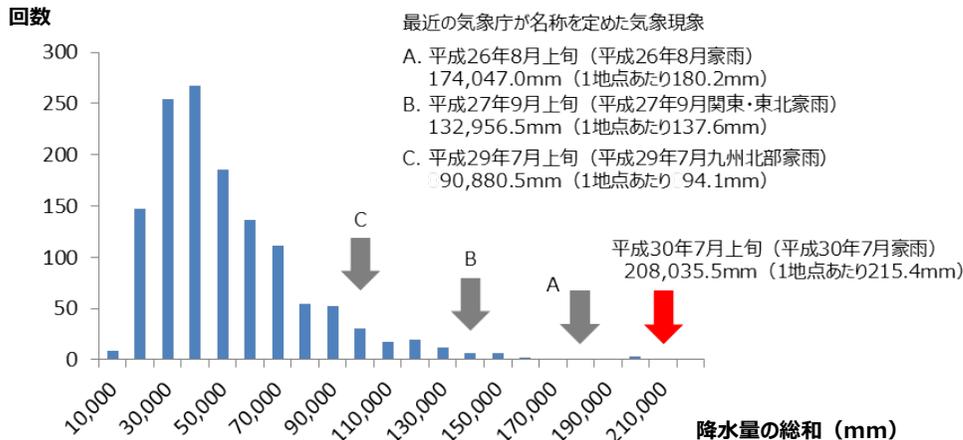


# 平成30年7月豪雨の雨量の状況

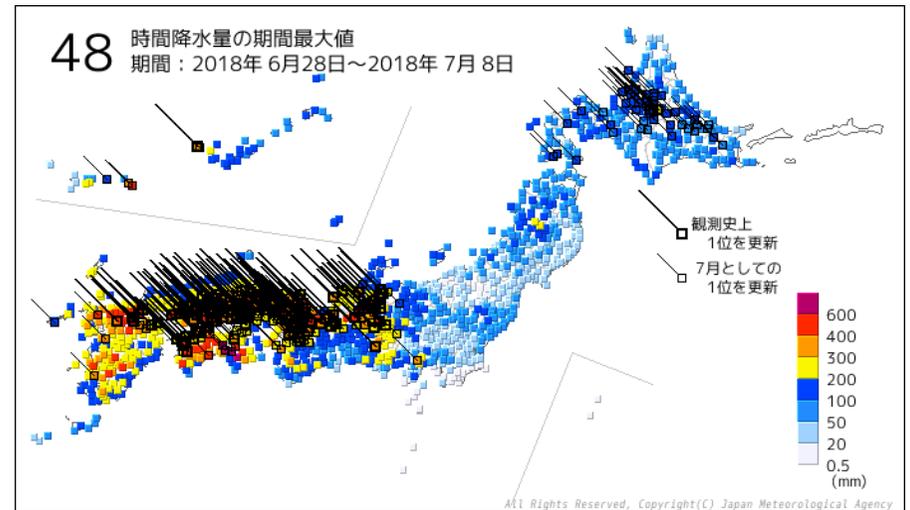
## ■ 6月28日から7月8日までの総降水量（アメダス）とその期間での降水量平年比



## ■ 全国のアメダス地点（比較可能な966地点）で観測された降水量の総和（1982年1月上旬から2018年7月上旬における各旬の値の度数分布）

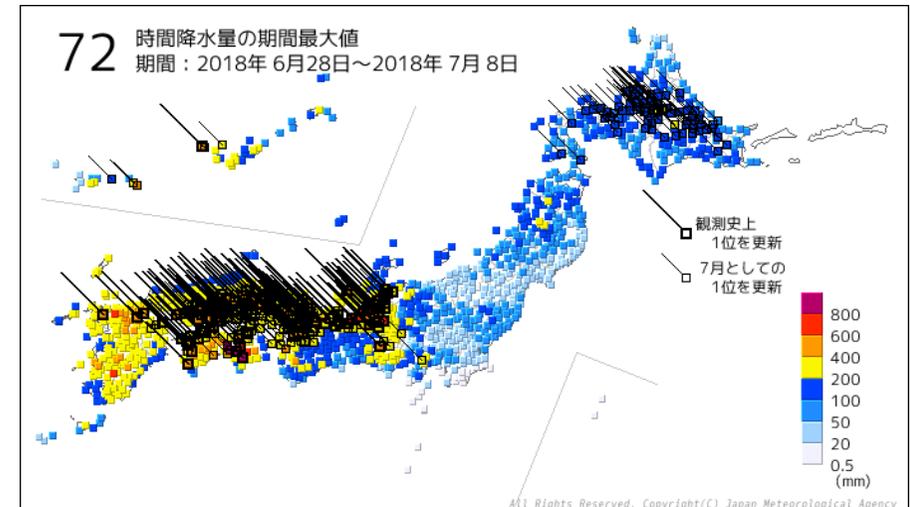


## ■ 6月28日から7月8日までに観測された最大48時間雨量（アメダス）



観測史上1位を更新した地点数：125地点  
7月としての1位を更新した地点数：239地点

## ■ 6月28日から7月8日までに観測された最大72時間雨量（アメダス）



観測史上1位を更新した地点数：123地点  
7月としての1位を更新した地点数：264地点

# 平成30年7月豪雨による被害状況

○前線や台風第7号の影響により、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、1府10県に特別警報が発表されるとともに、各地で河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、1府13県で200名を超える死者・行方不明者が発生するなど甚大な被害が発生。

○電気、水道等のライフラインの被害のほか、道路、鉄道等の交通インフラにも甚大な被害が発生。

## 被害状況等<sup>※1</sup>

### ・人的被害 (10/9時点)

死者224名、行方不明者8名

### ・家屋被害 (10/9時点)

全壊6,695棟、床上浸水8,640棟

### ・避難所避難者数

最大 約4.2万人 (7/7時点)

⇒10/9時点で370人

### ・電力

最大 約8万戸停電 (7/7時点)

⇒7/13復旧<sup>※2</sup>

### ・上水道

総断水戸数 263,593戸

⇒岡山県内:7/26断水解消<sup>※3</sup>

広島県内:8/9断水解消<sup>※3</sup>

愛媛県内:8/13断水解消<sup>※3</sup>

### ・鉄道

最大 32事業者115路線運転休止 (7/7 5:00時点)

⇒10/9時点で4事業者6路線運休中

### ・高速道路

最大 17路線19区間被災による通行止め (7/8 5:00時点)

⇒9/27までに全ての通行止め解除



浸水被害  
(岡山県倉敷市真備町)



鉄道の被害  
(広島県東広島市 JR山陽線)



道路の被害  
(広島県安芸郡坂町 広島呉道路)



浄水場の被害  
(愛媛県宇和島市 吉田浄水場)

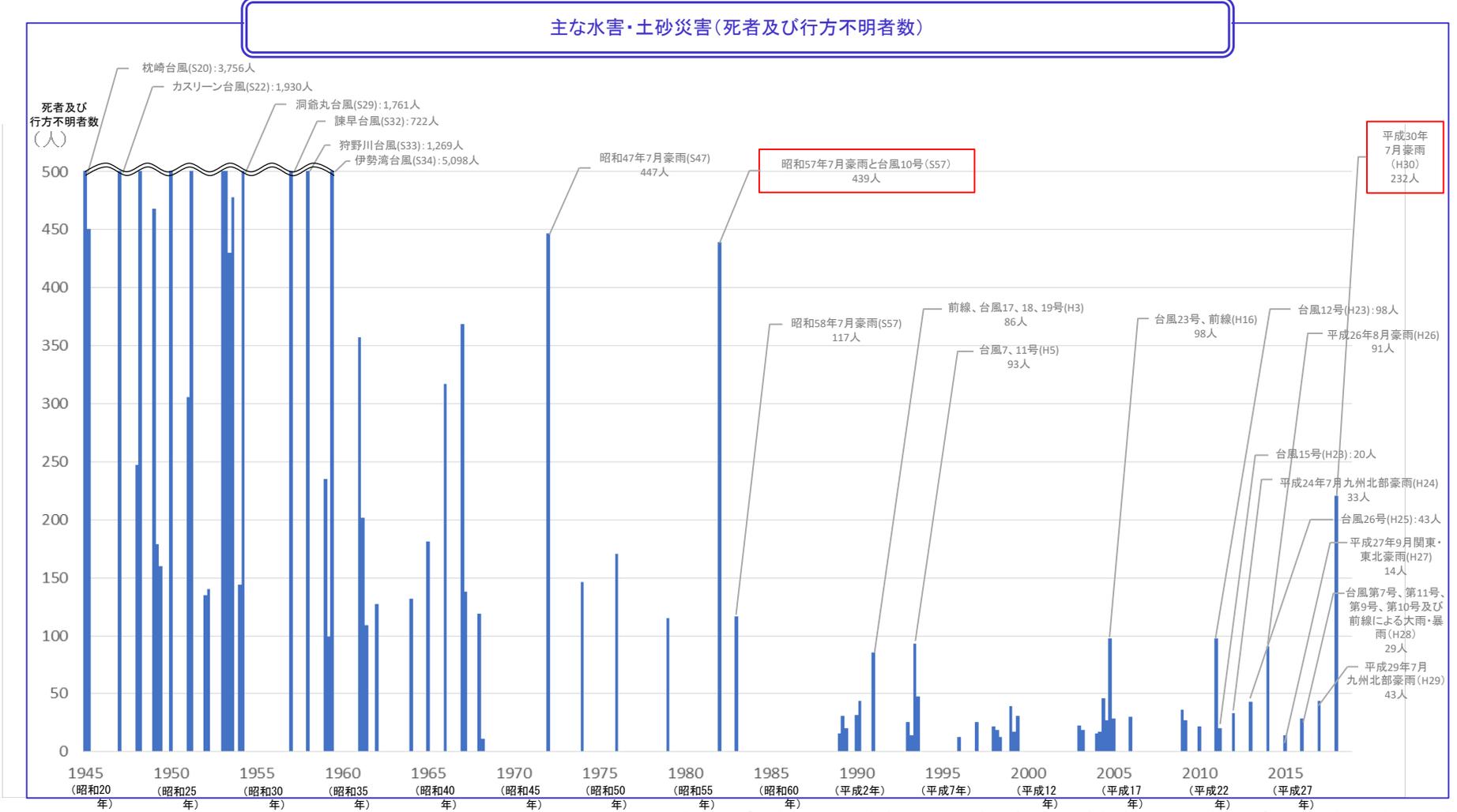
※1 平成30年7月豪雨による被害状況等について(内閣府)資料より作成

※2 住民が居住する地域

※3 豪雨により大きな被害が発生し、住民が避難している地域で、地域の復興に合わせて水道も復旧・整備する予定の地域(愛媛県松山市10戸、西予市32戸)を除く。

# 平成30年7月豪雨による被害の特徴

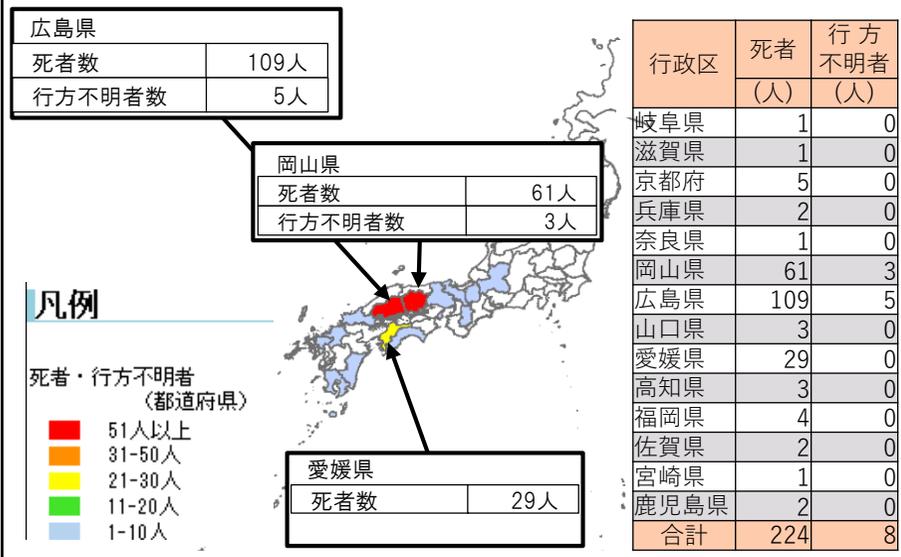
○平成30年7月豪雨は、近年、発生した水害・土砂災害としては、死者・行方不明者数が極めて多いことが特徴（一つの災害で死者・行方不明者が200人を超えたのは「昭和57年7月豪雨と台風10号」※以来となる。）。



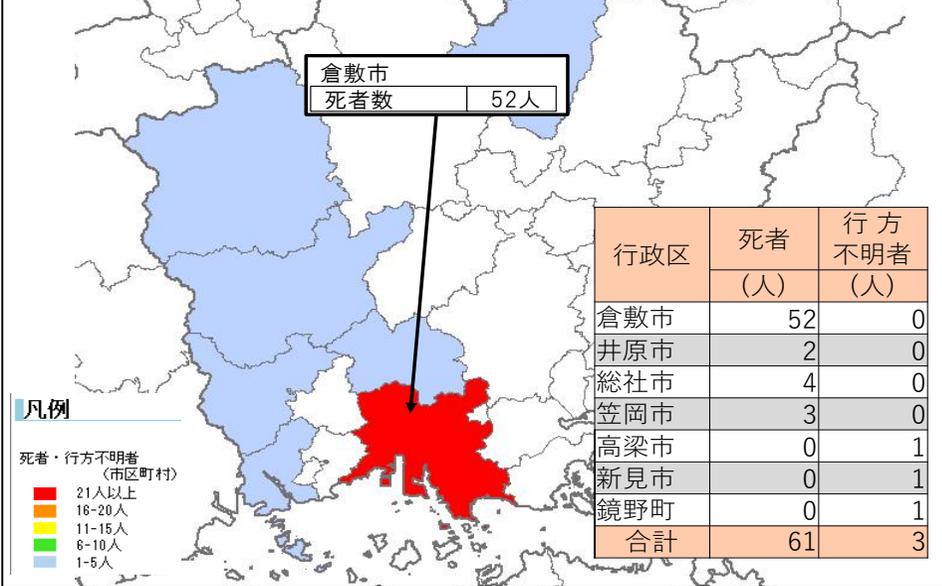
気象庁：災害をもたらした気象事例から、死者及び行方不明者数が10人以下のものを除いて作成  
 ※政府の非常災害対策本部は「昭和57年7月及び8月豪雨非常災害対策本部」として設置されており、昭和58年消防白書において、被害状況は昭和57年7月豪雨と台風10号によるものを一つの災害として分けずに整理されている。

# 平成30年7月豪雨による人的被害の状況

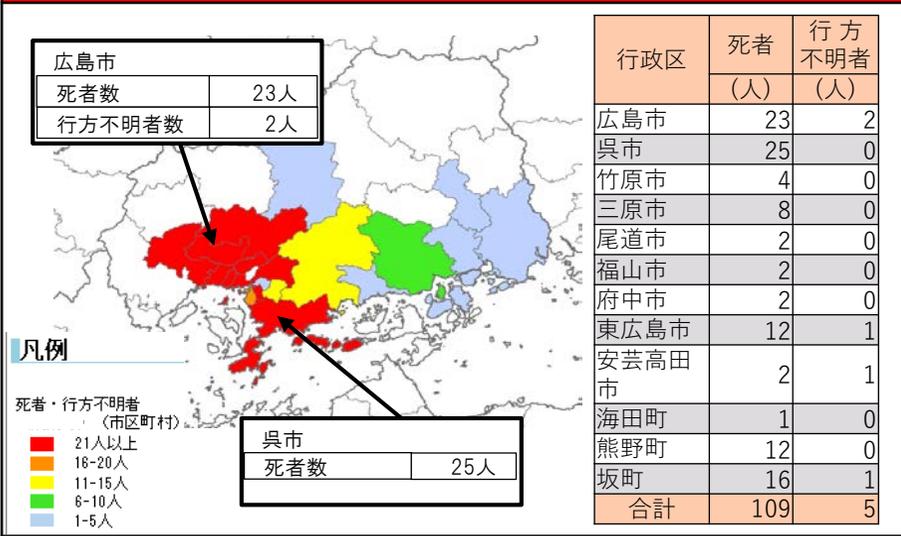
## 人的被害(死者・行方不明者)の状況【全国】



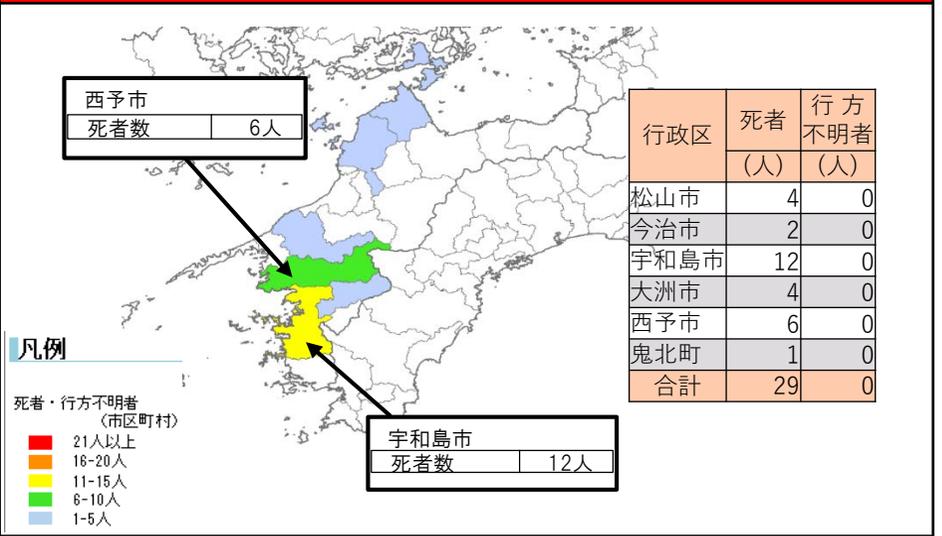
## 人的被害(死者・行方不明者)の状況【岡山県】



## 人的被害(死者・行方不明者)の状況【広島県】



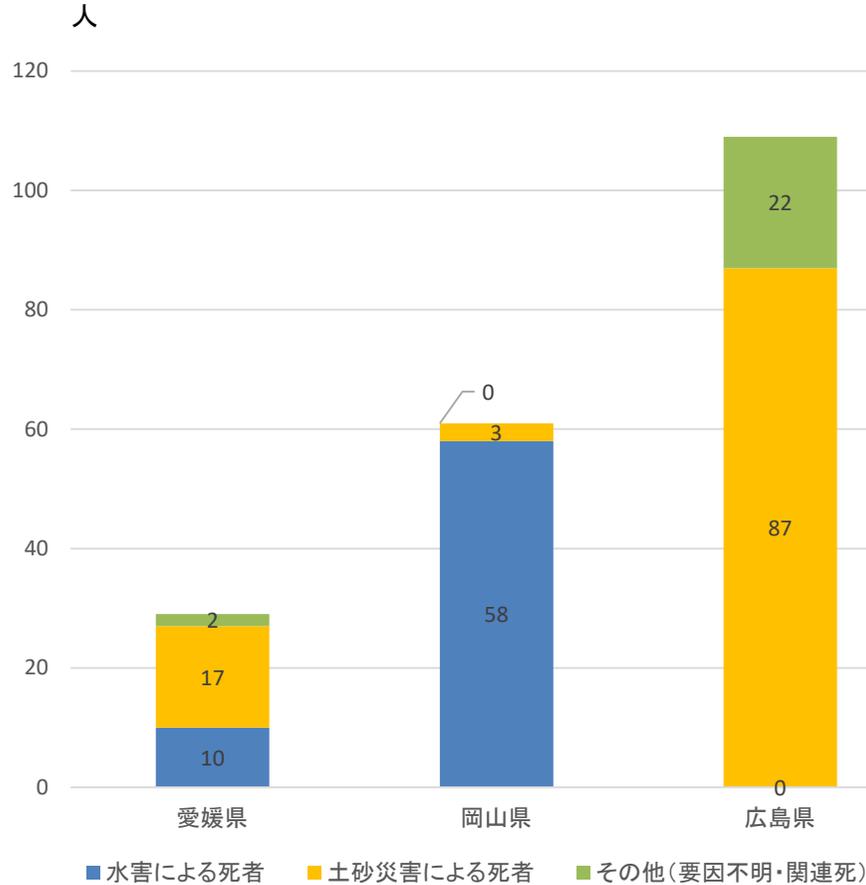
## 人的被害(死者・行方不明者)の状況【愛媛県】



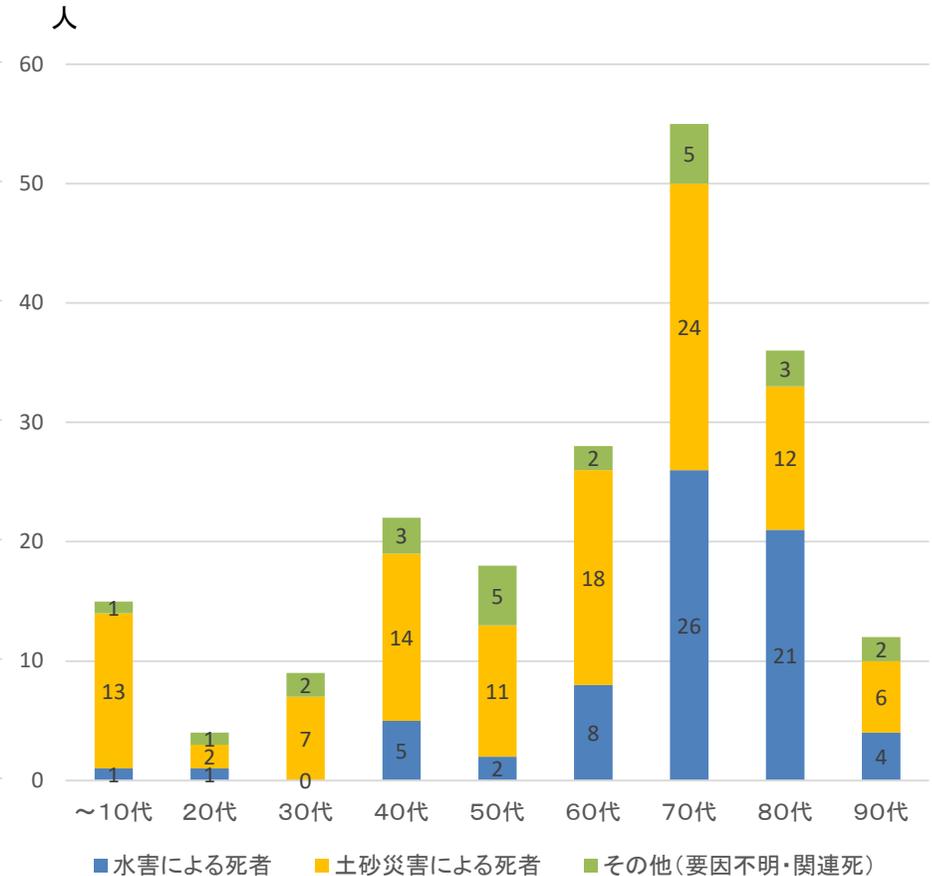
※内閣府HP公表資料「平成30年7月豪雨による被害状況等について(平成30年10月9日17:00現在)」をもとに内閣府にて作成

# 平成30年7月豪雨による人的被害の特徴

- 被害の大きかった愛媛県、岡山県、広島県での原因別死者数をみると、広島県では土砂災害による死者数が、岡山県では水害による死者数の占める割合が多かった。
- 上記3県の死者数のうち、60代以上の割合が約7割であった。



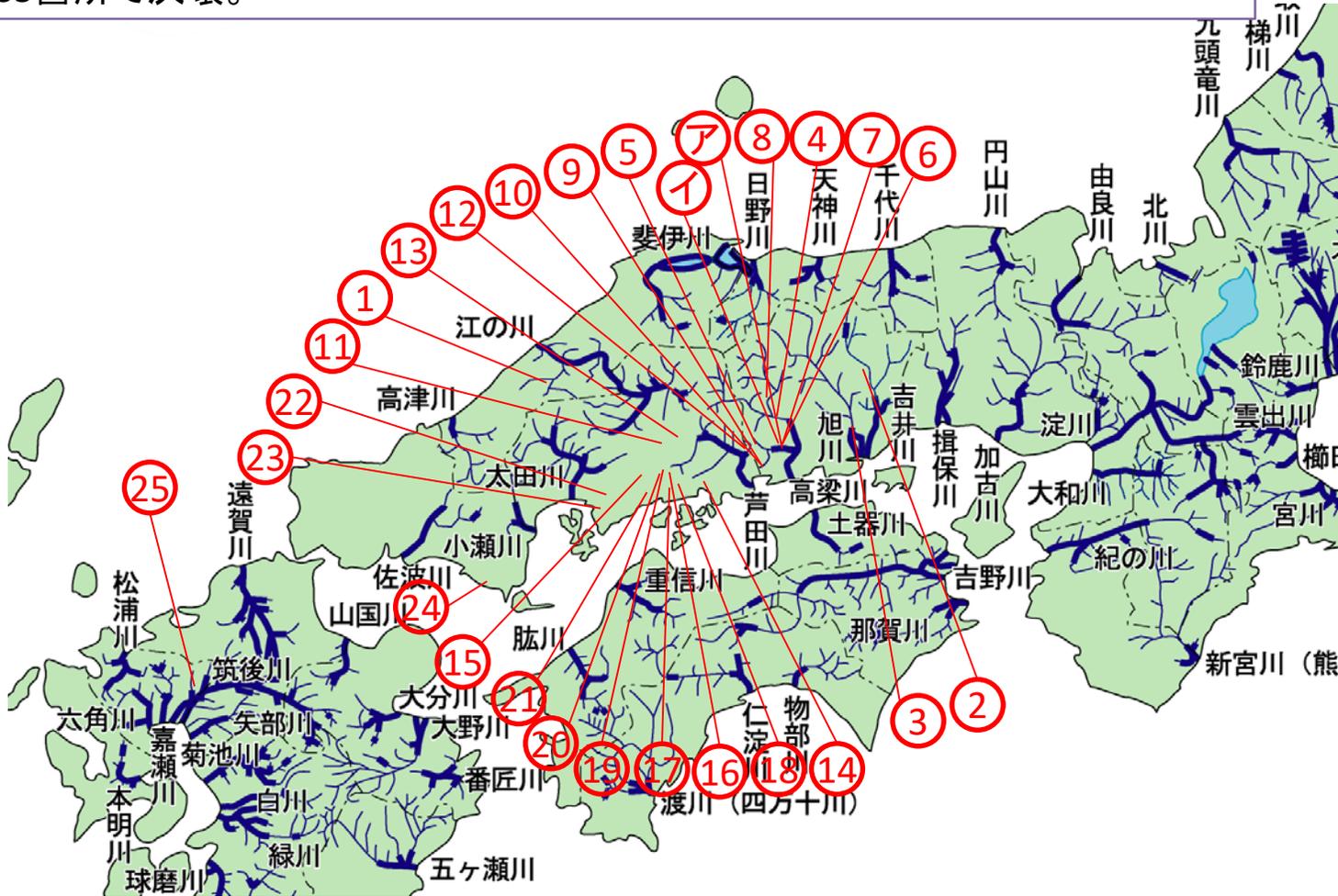
3県の原因別死者数



3県の年齢別死者数

# 平成30年7月豪雨による堤防の決壊等の状況

- 国管理の高梁川水系小田川では2箇所で決壊。
- 都道府県管理河川では、豪雨となった広島県16箇所、岡山県16箇所など、35箇所で決壊。



## ● 決壊箇所一覧

### 国管理河川(2箇所)

No	整備局	水系	河川	市町村	箇所数
ア	中国	高梁川	小田川	倉敷市	1
イ	中国	高梁川	小田川	倉敷市	1

### 都道府県管理河川(35箇所)

No	県	水系	河川	市町村	箇所数
1	島根	ごう かわ	やと がわ	ごうつし 江津市	1
2	岡山	あさひがわ	あさひがわ	あさひがわ 岡山市	1
3	岡山	あさひがわ	あさひがわ	あさひがわ 岡山市	1
4	岡山	たかはしがわ	たかはしがわ	あさひがわ 総社市	2
5	岡山	たかはしがわ	たかはしがわ	あさひがわ 矢掛町	3
6	岡山	たかはしがわ	たかはしがわ	あさひがわ 倉敷市	3
7	岡山	たかはしがわ	たかはしがわ	あさひがわ 倉敷市	2
8	岡山	たかはしがわ	たかはしがわ	あさひがわ 倉敷市	1
9	岡山	たかはしがわ	たかはしがわ	あさひがわ 井原市	1
10	岡山	たかはしがわ	たかはしがわ	あさひがわ 笠岡市	1
11	岡山	あした がわ	あした がわ	あした がわ 井原市	1
12	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 世羅町	1
13	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 福山市	1
14	広島	ほんごう がわ	ほんごう がわ	ほんごう がわ 福山市	1
15	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 東広島市	1
16	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 三原市	3
17	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 三原市	1
18	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 三原市	1
19	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 三原市	1
20	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 三原市	1
21	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 三原市	1
22	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 呉市	3
23	広島	あした がわ	あした がわ	あした がわ 東広島市	1
24	山口	あした がわ	あした がわ	あした がわ 周南市	1
25	福岡	あした がわ	あした がわ	あした がわ 大刀洗町	1

計37箇所

H30.9.5 12:00時点

国土交通省「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策検討小委員会」第一回資料より引用

# 平成30年7月豪雨による土砂災害の発生状況

土砂災害発生件数  
(7月2日以降を集計)

(都道府県報告)

1道2府28県

2,512件※

土石流等： 769件

地すべり； 55件

がけ崩れ： 1,688件

【被害状況】

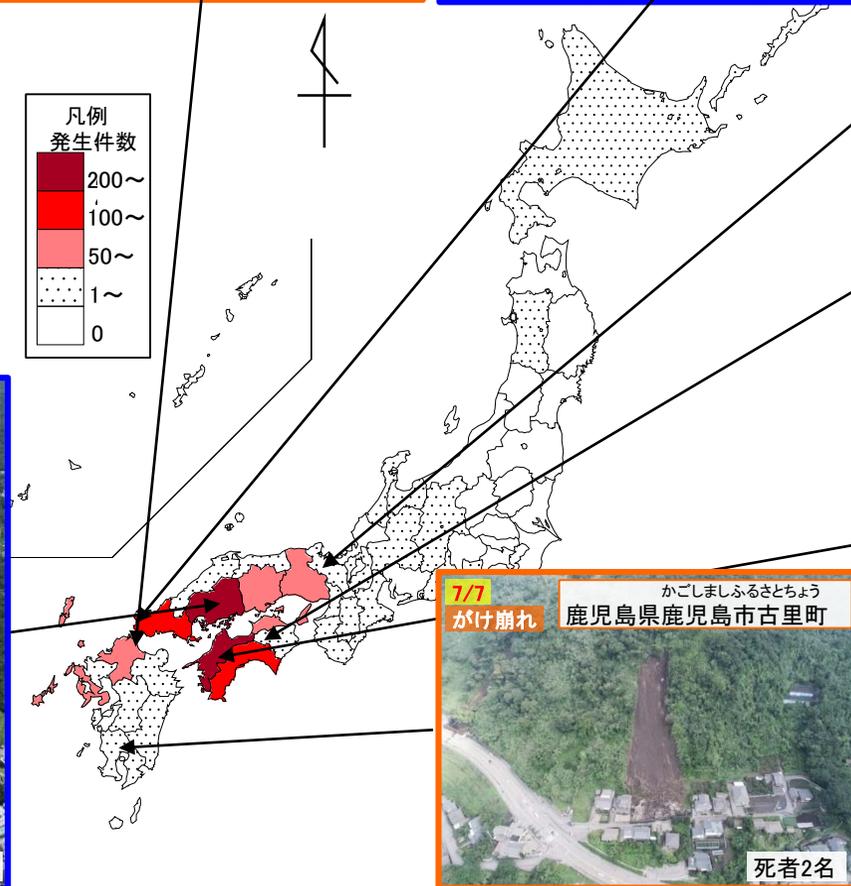
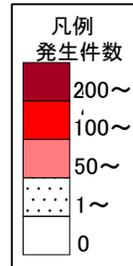
人的被害：死者 119名  
負傷者 29名  
人家被害：全壊 213戸  
半壊 340戸  
一部損壊 290戸

※被害状況等については精査中

(9月25日時点)

※1 近10年(H20~29)の平均土砂災害発生件数1,106件/年

※2 近10年(H20~29)の最大土砂災害発生件数1,514件/年<H29>



# 平成30年7月豪雨による治山関係の被害状況

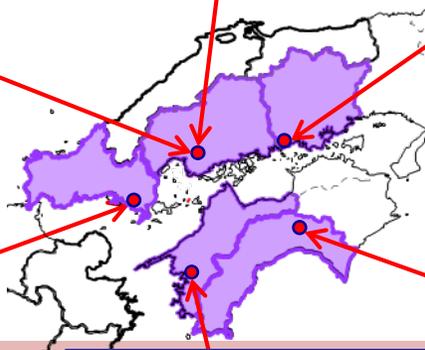
- 発達した梅雨前線等が西日本を中心に記録的な大雨を降らせ、各地で甚大な被害が発生
- 治山関係被害(林地荒廃、治山施設)は、2,897箇所(1道2府31県:2018年11月7日現在)



広島県  
林地荒廃 1,046か所  
治山施設 11か所



岡山県  
林地荒廃 125か所



山口県  
林地荒廃 131か所



愛媛県  
林地荒廃 249か所  
治山施設 2か所

高知県  
林地荒廃 136か所  
治山施設 6か所



# 平成30年7月豪雨によるため池に関する被害状況

## ため池決壊件数

(都道府県報告)  
2府4県  
**32件**

### 【被害状況】

人的被害：死者 1名  
負傷者 4名  
人家被害：全壊 1戸  
床下浸水 8戸

(10月9日時点)

被災状況 広島県 乙池・大池・横池(重ね池)



被災状況  
写真① 大池



被災状況  
写真② 横池



堤体決壊

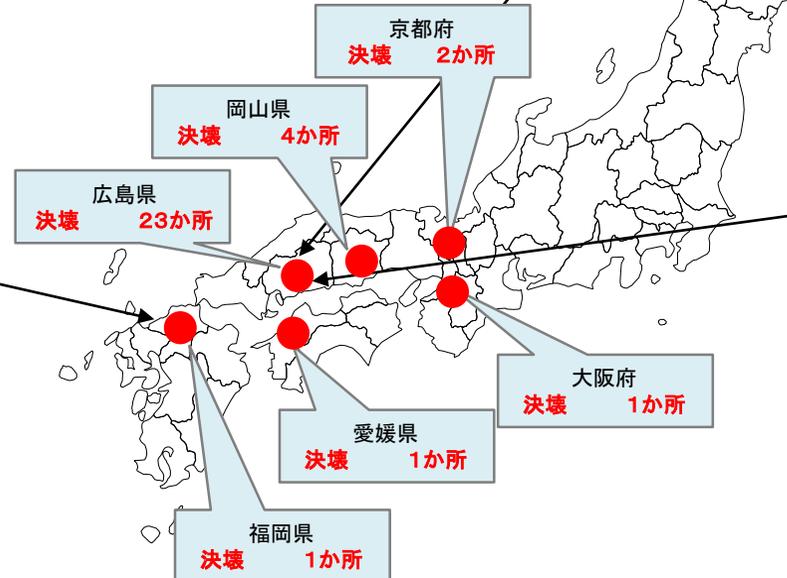
なかしま  
福岡県 中島ため池



下流の小学校への土砂流入



3連の重ね池のうち、上流側の横池と大池が決壊。ただし、下流の乙池は土砂流入のみで決壊には至らなかった。



被災状況(上流側) しょうぶさこかみ しょうぶさこしも  
広島県 勝負迫上池・勝負迫下池



被災家屋



決壊による濁流の流入のため下流の小学校が一時孤立。

ため池上部のグラウンドの崩壊による土砂流入により、ため池が決壊。ため池下流において、1名死亡、4名負傷。

# 高梁川水系小田川における浸水状況【岡山県】

○高梁川水系小田川では倉敷市真備町で堤防が決壊し、大規模な浸水により甚大な被害が発生したほか、堤防の損傷が多数発生した。



<小田川の被災状況>  
 浸水面積 : 約1,200ha  
 浸水戸数 : 約4,100棟  
 堤防の決壊 : 2箇所(国管理)  
 6箇所(県管理)  
 堤防法崩れ : 6箇所(国管理)  
 1箇所(県管理)  
 越水 : 3箇所(国管理)



【堤防の決壊】L=約100m  
 小田川左岸3k400付近

【堤防の決壊】左岸L=約200m  
 右岸L=約300m  
 末政川左右岸0k700付近(県)

【堤防の決壊】L=約20m  
 末政川左岸0k400付近(県)



【裏法崩れ】L=約80m  
 小田川左岸4k200付近

【堤防の決壊】左岸L=約20m(高馬川左岸0k付近)  
 右岸L=約100m(高馬川右岸0k100付近)

【裏法崩れ】L=約30m  
 小田川右岸0k600付近

【堤防の決壊】L=約50m  
 小田川左岸6k400付近



【越水】  
 右岸7k000付近

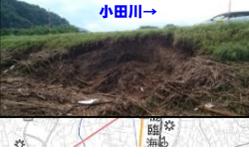
【越水】  
 右岸3k200付近

【裏法崩れ】L=約1,000m(点在)  
 小田川右岸2k800~3k800付近



【越水】  
 右岸4k000付近

【裏法崩れ】L=約15m  
 小田川右岸4k200付近



【裏法崩れ】L=約50m  
 大武谷川(県)小田川合流点付近



【堤防の決壊】L=約100m  
 真谷川左岸1k600付近(県)



【表法崩れ】L=約70m  
 小田川右岸4k400付近



【裏法崩れ】L=約16m  
 小田川右岸4k200付近



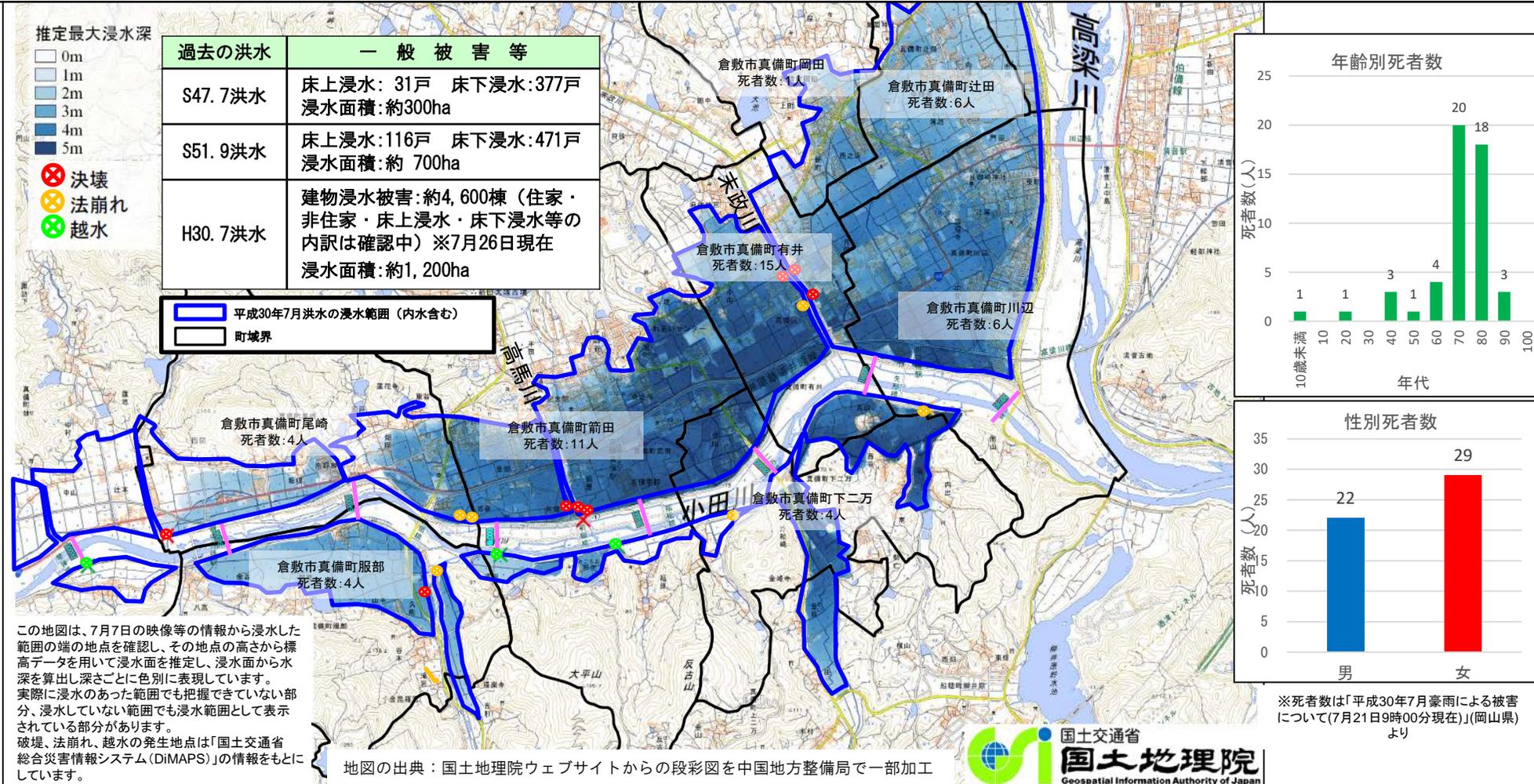
凡例  
 × : 堤防の決壊  
 ▲ : 堤防欠損  
 ● : 越水

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

※7/16 15時時点  
 県管理区間も含む

# 倉敷市真備町の浸水状況（人的被害）

- 平成30年7月豪雨において市町村別死者数が最大となった倉敷市の死者52人のうち、51人が真備町に在住。
- 特に、末政川と高馬川の間に位置し、浸水深が深い有井(ありい)地区、箭田(やた)地区で死者が多く発生。
- 年齢別では、70代以上の高齢者が約80%と著しく集中。
- 空中写真から判読の流出家屋は7箇所のみであり、真備地区での犠牲者のほとんどが、非流出家屋の屋内で遭難の可能性。  
(平成30年7月豪雨による人的被害等についての調査(速報):静岡大学防災総合センター教授 牛山素行)



# 平成30年7月豪雨による広島県の土砂災害発生状況

(10月29日時点)

土砂災害発生件数  
(7月2日以降を集計)

(広島県報告)

**1,242件\***

土石流等 : 609件  
地すべり : 1件  
がけ崩れ : 632件

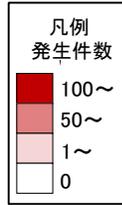
【被害状況】

人的被害 : 死者 87名  
家屋被害 : 全半壊 411戸

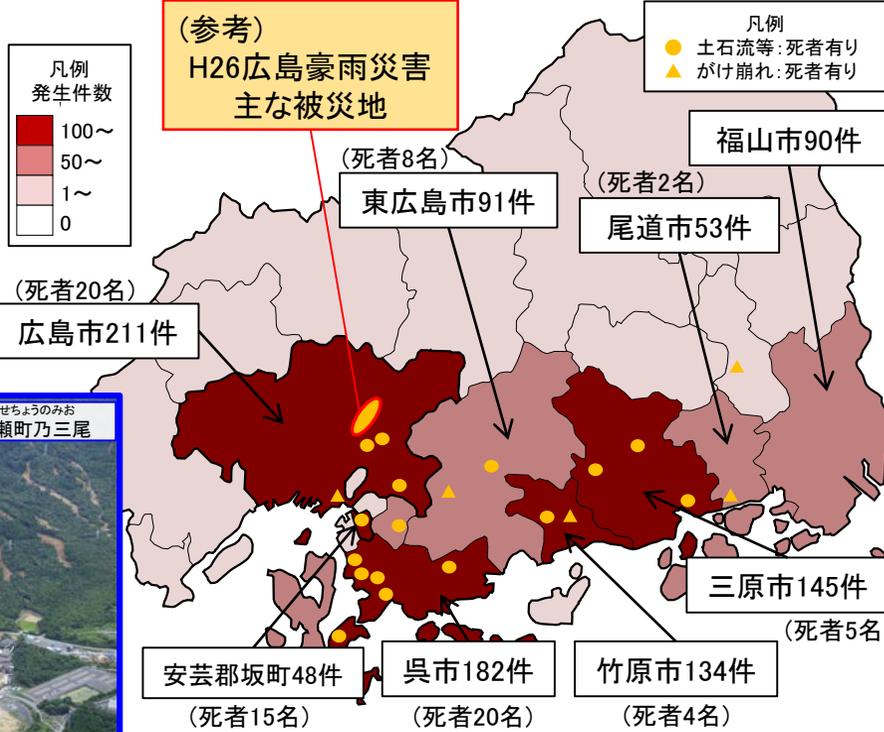
※被害状況等については精査中

## 広島県内の市町村別土砂災害発生状況

(参考)  
H26広島豪雨災害  
主な被災地

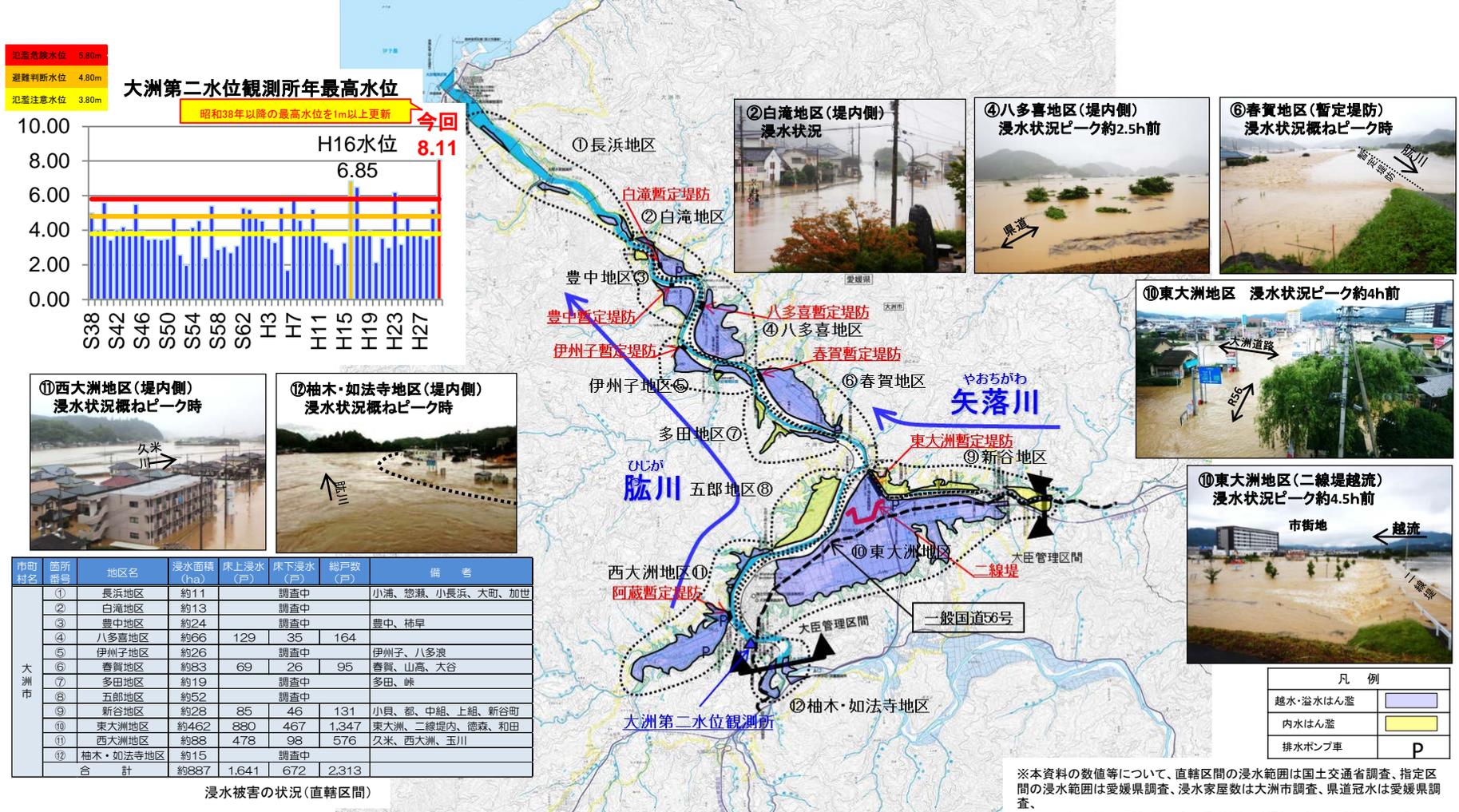


凡例  
● 土石流等: 死者有り  
▲ がけ崩れ: 死者有り



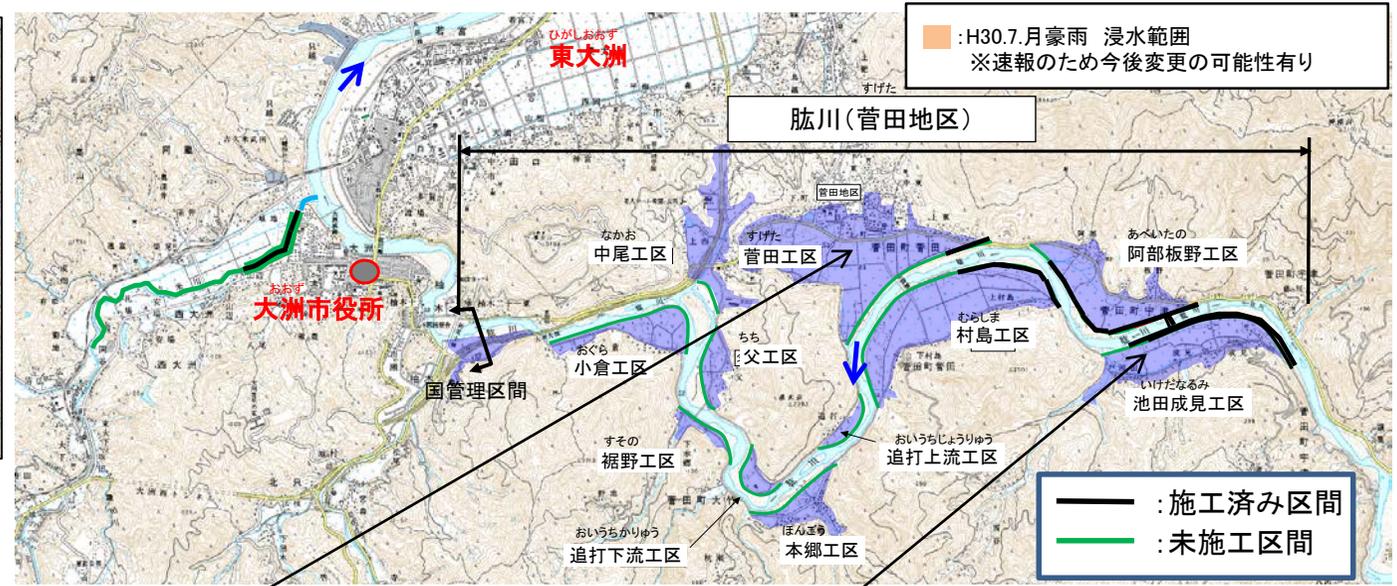
# 肱川における浸水状況（東大洲地区等）

- 平成30年7月豪雨により、大洲市全域で浸水家屋数3,114戸（床上2,296戸、床下818戸）の被害が発生（8月30日19時現在大洲市調べ）。
- 直轄区間においては阿蔵地区をはじめ、全ての暫定堤防箇所で越流。東大洲については、二線堤からも越流し、主要国道56号の冠水や沿道商業施設の浸水など甚大な浸水被害が発生。7月8日午後までに浸水は解消。
- 大洲第二水位観測所の水位は、詳細な水位記録が存在する昭和38年以降で最高水位（8.11m）を記録。



# 肱川における浸水状況（菅田地区）

○ 平成30年7月豪雨では、無堤区間及び霞堤箇所からの溢水により浸水面積約327ha、床上浸水約395戸、床下浸水約66戸の被害が発生（7月7日8時40分頃～15時10分頃まで浸水）。



菅田地区（8日12時頃）



菅田地区（8日12時頃）

# 肱川における浸水状況（西予市野村地区）

- 野村ダム下流の西予市野村町では、昭和49年～平成8年までに県により河川改修事業を実施済。
- 平成30年7月豪雨では、計画を上回る洪水により浸水面積約70ha、床上浸水約570戸、床下浸水約80戸の被害が発生（7月7日6:30頃～10:00頃まで浸水）。

